

■小崎弘道 日本組合基督教会の牧師。同志社2代社長。雑誌や新聞を創刊し、キリスト教書籍を販売して伝道に努めた。

こざきひろみち

松下村塾・1856= 熊本藩士小崎次郎左衛門の次男に生まれる。母は百寿。

桜田門外変・1860= 4歳：

薩摩藩士密航1865= 9歳：

明治維新・1868=12歳：

はじめ藩校時習館に学び、

廃藩置県・1871=15歳：

熊本洋学校に入学、ジェーンズの薫陶を受け、まもなく生徒取締に任ぜられる。

明治6年政変 1873=17歳：

佐賀の乱・1874=18歳：

熊本市に小・中学校が開設されたときに教師となり、校則や生徒取締細則その他を立案した。

三つの反乱・1876=20歳：

熊本洋学校生徒が花岡山でキリスト教奉教の結盟をしたときは入信せず、その後、ジェーンズより受洗。

他の洋学校同窓生とともに同志社英学校に入学、

京都第三公会に属し中国・四国各地の伝道につとめ、

琉球処分・1879=23歳：

卒業し、東京の新肴町基督教会(霊南坂教会)の牧師として按手礼を受ける。

・・・・1880=24歳：

*神田乃武・井深梶之助・植村正久らと協力して東京基督教青年会を創立、会長に就任。月刊誌{六合雑誌}を発刊、「発行の趣意」を執筆。

明治14年政変1881=25歳：

津田仙の媒酌で岩村千代と結婚。_[六合雑誌]第7号に「近世社会党ノ原因ヲ論ス」という論文を載せて社会主義を紹介し、マルクスの名を日本ではじめて語ったことはよく知られている。

新体詩抄・1882=26歳：

東京第一基督教会牧師となり、

岩倉具視没・1883=27歳：

辞任後、キリスト教書出版販売の目的で警醒社を設立、また{東京毎週新報}(のち{基督教新聞}{東京毎週新誌}{基督教世界})を刊行するとともに、傍ら伝道につとむ。番町教会を設立して兼牧。

帝国憲法発布1889=33歳：

同志社での夏期学校で「聖書のインスピレーション」を講演、聖書の逐語靈感説を批判して問題となる。

帝国議会始・1890=34歳：

*新島襄死去のあとを受け、二代目同志社社長・同志社英学校校長に就任。

大本教・・・・1892=36歳：

当時の国粹保存主義、教育宗教衝突問題、宣教師との対立、同志社財政面の困難などの難問の中で同志社社長として折衝し、

日清戦争始・1894=38歳：

八幡製鉄始・1897=41歳：

*同志社を辞任、やがて京橋教会の牧師となる。

子規句歌革新1898=42歳：

{新世紀}を発刊。

田中正造直訴1901=45歳：

その後、キリスト教界の指導的地位の人として牧界の世話役となり、あるいは国内各地、ハワイ・アメリカ各地に伝道して、

日露戦争終・1905=49歳：

韓国併合・1910=54歳：

明治天皇没・1912=56歳：

ベル仁条約・1919=63歳：

原敬首相暗殺1921=65歳：

共産党事件・1928=72歳：

満州事変・1931=75歳：

*牧師を辞任、名誉牧師となる。

帝人疑獄事件1934=78歳：

南洋委任統治領各地を視察し伝道。

日中戦争始・1937=81歳：

健保+総動員 1938=82歳：

没した。

「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、